

真崎浦・大山下・細浦・新川（田エリア）座談会 （1回目まとめ）

1 実施日時

令和5年10月11日（水） 18:00～20:00

2 参加者

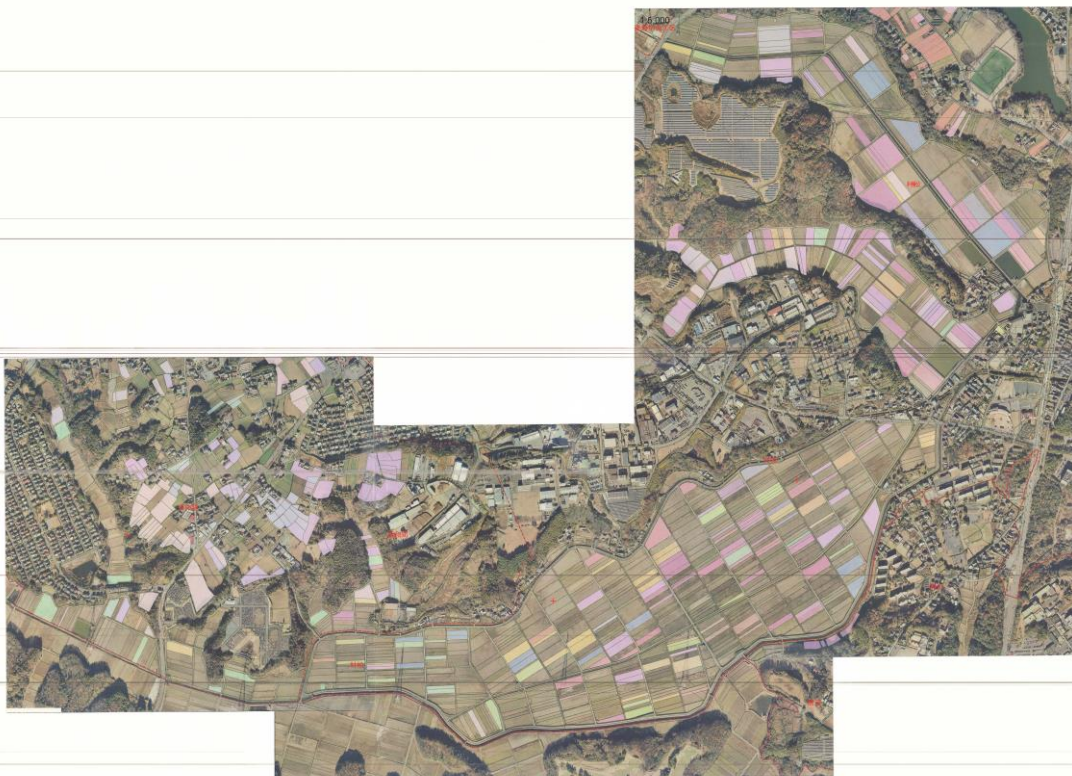
真崎浦土地改良区，新川土地改良区及び細浦土地改良組合関係者，東海村農業委員，東海村農地利用最適化推進委員，転作実践委員会関係者，エリアの農業者及び中心的担い手，東海村農業委員，農地利用最適化推進委員，JA職員，東海村職員（事務局）

計51名

3 内容

（1）現状地図

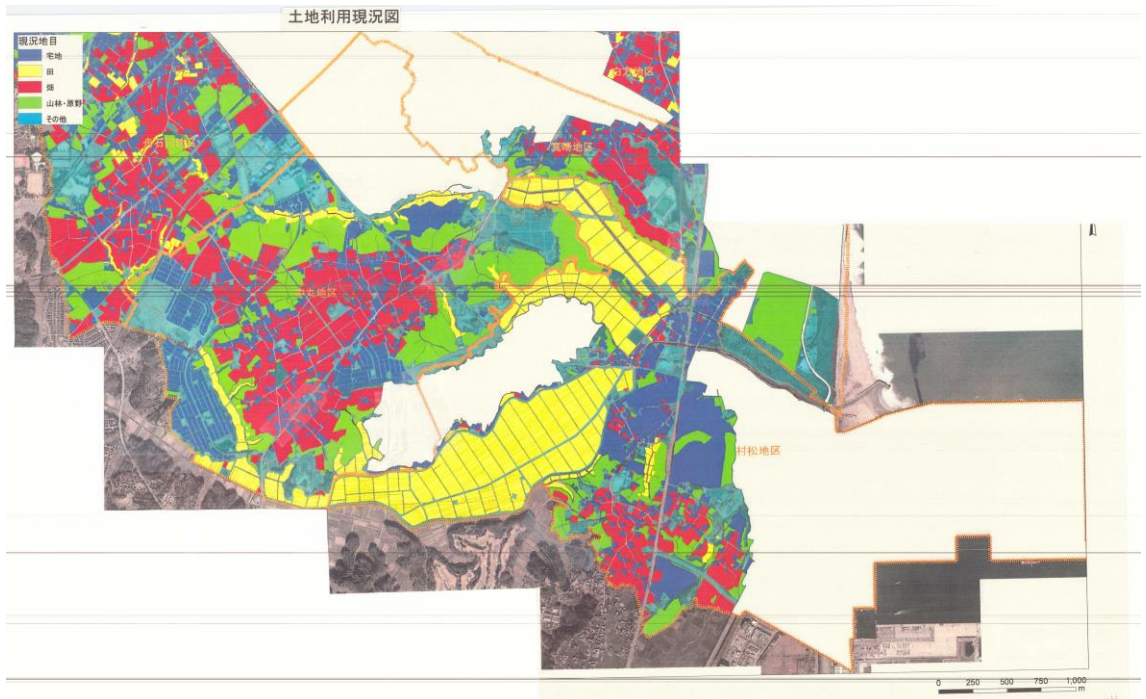
- ・耕作者別



・ 後継者の有無別



・ 現状地目別



(1) 地域農業の現状及び課題

<参加者からの意見>

- ・後継者，担い手がない。(耕作者及び組合の事務局員)
- ・担い手の育成が必要。
- ・農地の集約化が必要。
- ・機場から遠い場所は水がこない。
- ・ポンプも配管も古くなっている。一方だけ修繕しても意味がない。
- ・クロが多く，除草作業が大変。
- ・中間管理機構の活用が難しい。
- ・機械の値段が高い。機械を借りたくても借りれない。
- ・洪水や台風水利施設が耐えられない。

<まとめ>

- ・地域の特性としては水稲が多く耕作されており，休耕地が少ないが，施設や担い手の面で限界がある。
- ・農地の場所によって，水がこない，圃場が深すぎる，土質や形状が悪い，一区画が小さい等の問題がある。
- ・給排水施設等が老朽化している。

(2) 課題解決に向けた意見

<参加者からの意見>

- ・国策としての米作り（自衛隊が作るなど）の検討。
- ・土地の集約化が必要。集約化が進めば，米を作る場所と転作や他の作物を作る場所が分けやすい。
- ・農業をアルバイトで担ってくれる人を探す。
- ・小学校で農業を学ばせたり，学校給食と連携する。
- ・農業の素晴らしさを子どもに教えられるような家庭環境づくり。
- ・小さい圃場を耕作してくれる方を探す。
- ・圃場を大きく基盤整備する。
- ・農機具のレンタルやリースの検討。

<まとめ>

- ・地域で取り組める米以外の作物等を検討していく。
- ・基盤整備により生産効率を高め，村外の方も含めて担い手の確保に努め，良好な水田環境を維持していく。
- ・中間管理機構を活用するべく，制度の情報共有を図る。
- ・水利施設等の補修の検討。
- ・担い手の育成手法の検討。
- ・学校教育を含めた子どもたちとの交流推進。

(3) 次回の話し合い時に実施すること（案）

- ・1回目の話し合い結果のまとめを参加者間で共有し，行政，地域，J A，土地改良区，農業委員会等，それぞれの機関ができることを洗い出し，課題解決プランを検討する。
- ・行政は，農地の集約や後継者等への支援に関する制度概要を整理し，参加者へ情報提供する。
- ・土地改良区内での施設整備や事業推進の優先順位を共有する。

【座談会の様子】

< 1班 >



● 班内で出た意見まとめ ●

- ・施設、米価、人、パイプライン等様々な課題がある。
- ・圃場の面積が小さい。
- ・農家の高齢化。
- ・後継者がいない。
- ・機械を借りたくても農作業の時期は一緒のため難しい。
- ・担い手を作る，人を育てるのが一番大切。
- ・農業は儲ければやる人がいるはず。
- ・企業が農業を担っても良いのではないか。
- ・米が作れなくなると，日本国民の食がなくなることになる。災害級の事態になることも考えられるので，国策として自衛隊が米作りをしても良いのではないか。
- ・農機具は高級車を買っているようなもの。
- ・圃場の面積が小さくなった原因は，戦前の家長制度から相続者へ平等に相続されることになったためと考えられる。分割して相続するようになったため，1つの圃場が小さくなった。
- ・土地の集約化が必要。集約し，米を作るところ，転作や収益上がるものを作るところと分ける。集約しないとなかなか収益上がらない。

< 2班 >



●班内で出た意見まとめ●

- ・すべてのものが高騰している。
- ・圃場の面積が小さすぎる。
- ・農地を貸したいが、借り手がない。
- ・機場から遠い圃場では水がこない。中干のあとに1～2週間水が溜まらない。
- ・新川は機械が入らない。
- ・土手が広いと草刈りが大変。
- ・高齢化、担い手不足。
- ・ポンプや配管の修繕が必要。
- ・米以外の作物（レンコン、たまねぎ）の検討。
- ・真崎浦はひたちなか市の耕作者がいる。村外の耕作者にも頼る。
- ・家庭菜園ならぬ家庭水田を考える。
- ・小さい圃場なら耕作してくれるという人を探す。
- ・村内を大きく法人化する。

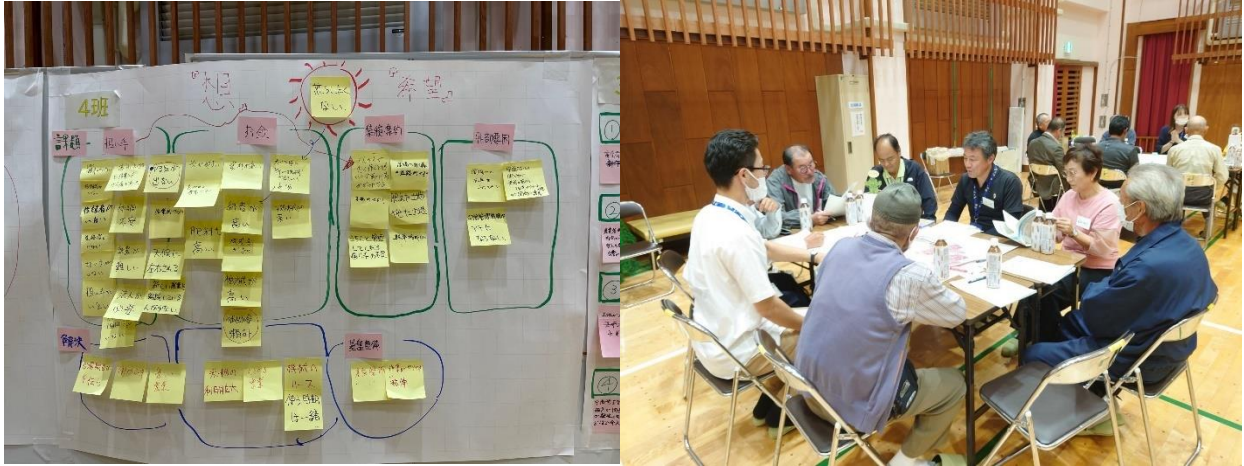
< 3班 >



●班内で出た意見まとめ●

- ・課題としては「ヒト」、「お金」、「土地・基盤整備」、「集約・その他」が出た。
- ・担い手がないということが大きな問題。
- ・嫁いでくれる人がいない、将来が見えない。
- ・若い人を呼び込むことが必要。また、小学校の教育から連携して農業を学ばせることも必要。
- ・認定農業者にかかるハードルを下げる。
- ・個人経営の農家の機械代補助額や認定農業者への補助額を上げる。
- ・圃場の面積が小さい。
- ・クロが多く、除草作業が大変。
- ・一枚当たりの圃場の大きさを大きく基盤整備する。
- ・耕作していない圃場の取り扱いが難しい。
- ・農地制度の見直しが必要。

< 4班 >



● 班内で出た意見まとめ ●

- ・土地を持っていて人に貸したいが、荒らしたくない。自分たちの手でやらなくてはならない。
- ・担い手がなくて困っているが、中間管理機構はあまり力になってくれない。(結局自分たちで人を探すようになる。)
- ・農業は儲からない。
- ・集約したり土地を貸すのは良いが、良い土地でないことがネック。
- ・働き方の改革として、他県では市町村の職員が農業をアルバイトで担っている例もある。東海村も利用してみてもどうか。
- ・学校給食との連携を試みるのはどうか。
- ・基盤整備は肝である。

< 5班 >



● 班内で出た意見まとめ ●

- ・昔は、農業だけで生計を立てられたが、今は難しくなっている。
- ・以前は、親がやっている田植えや稲刈りの際に子どもが手伝うという光景があったが、現在は田んぼに子どもを連れてくる人は少ない。
- ・農業の素晴らしさを子どもに教えられような家庭環境づくりが必要。
- ・米の収穫量も減り、消費量も減っている。米を食べる人が少ない。
- ・米が安いことに比べて、機械、肥料、燃料代は上がっている。
- ・小さい機械でも500万円は下らない。

- ・ やらない方が良く考える子どもも多いのではないかな。
- ・ 細浦は周りに比べて1つの圃場の面積が大きいけど、これからの基盤整備では最低でも3～4反歩で1つの圃場にしていけるのが望ましい。(1反歩圃場では小さすぎる。)
- ・ 洪水や台風に耐えられる水利施設が必要。

< 6班 >



● 班内で出た意見まとめ ●

- ・ インフラの問題、水の出が悪い。インフラの修復が必要。
- ・ 全体的な再整備、補修が必要。
- ・ 細かい部分は丁寧な対応が必要。
- ・ 担い手、後継者がいない。
- ・ 担い手の確保をするために、担い手を育てる体制の整備が必要。
- ・ 農機具のレンタル、リースの検討。
- ・ J Aの営農指導強化が必要。
- ・ 法人化、企業誘致等が必要。